



## 越冬キュウリ

グリーンプラザ第一集出荷センター  
営農指導員 川島 俊一

追肥や灌水は、一度に多くやるのではなく、こまめに行いましょう。特に、曇りや少量の雨の日などでも、土が乾くようであれば少量でも灌水を行った方がよいでしょう(あまりやりすぎると、べと病や菌核病の原因と



### 収穫開始からの管理

追肥や灌水は、一度に多くやるのではなく、こまめに行いましょう。特に、曇りや少量の雨の日などでも、土が乾くようであれば少量でも灌水を行った方がよいでしょう(あまりやりすぎると、べと病や菌核病の原因と

# 農業 テクニカル

Agricultural - work

# ダイアリー

technical diary



## ソラマメ

成東経済センター  
営農指導員 内山 晃宏



### 昨年度の状況

昨年度は、本圃定植以降(11月)、気温、降水量ともに平年並みで、育苗定植では大きな問題はありませんでした。しかし、年明けの1月以降、雨が少なく乾燥気味で推移し、2月には大風が続いたため、トンネル被覆がはがされるなどの被害が発生しました。

3月以降は、低温や大風の影響により、低段の花落ちが目立ち、4月下旬以降では高温・乾燥から登熟が進まず、小莢傾向でした。また、3月下旬からは、土壌伝染性のウイルス病が多発し、収量が低下する圃場が見られました。



### ソラマメ病害虫防除

#### ●ウイルス病害

このウイルス病は土壌伝染性の新規のウイルスで、感染した場合、株に萎縮症状、葉にえその輪紋、莢にえそ症状が出るのが特徴です(写真①~③)。また、早期に発病すると生育が停止し、収穫に至らないこともあります。現在できる対策としては、①連作を避ける、②水はけの悪い圃場を選ばない、③ウイルス病と思われる症状が確認された圃場では発病株を抜き取る、



### 昨年度の状況

昨年は、播種期〜定植期の天候不順により、べと病や菌核病といった病害が散見されましたが、年末から天候が安定し、病害虫も少なかったため、比較的収穫量が増加しました。



### 定植から収穫までの管理

越冬作は長期どりが基本となります。定植から収穫までは樹勢を強めに持つべく心掛けましょう。



### 環境制御技術について

環境制御技術とは、効率よく光合成を行い、収量をアップさせるものです。トマトの長期作で普及が進み、他の品目でも導入する産地が増えてきています。管内では、越冬キュウリで炭酸ガス発生機(写真④)や測定器の導入が進んできています。光合成を最大化するためには①光



### 温度管理

最低気温は11℃を下回らないように注意し、出荷最盛期には13℃を下回らないようにしましょう。また、夜明けと同時に効率よく同化作用を行うため、夜明け前から加温を行うことで、収量アップに効果的となります(日の出時20℃が目標)。

なるため、あくまでも少量)。

④トラクターなどの管理を最後に行い、土壌を他の圃場に持ち込まない、⑤堆肥等を投入し土壌の改善を行う、の5つです。

#### ●赤色斑点病

初めは葉の表面や裏に小さな斑点が現れ、症状が進行すると大型の斑点となり、葉や莢にも生じ、収量や外観を著しく損ねます。3月以降の降雨後に多く発生するため、降雨後の予防散布が効果的です。また、肥料切れや排水不良の圃場でも発生が多くなるので注意しましょう。

#### ●さび病

4月以降、白い斑点の中に褐色のさび病の病斑が発生します。発生しやすい下葉を観察して、早期防除に努めましょう。

#### ●アブラムシ類

アブラムシは3〜4月頃になると多発し、莖や葉や莢に虫がたくさん群がって葉の汁を吸い、株の生長が止まります。定植時にはアドマイヤー1粒剤を処理し、発生時にはアデオン乳剤やモスピラン顆粒水溶剤等を散布するのが効果的です。また、殺虫剤散布だけでなく、摘心も組み合わせることで発生を防ぎましょう。

#### ●土壌診断の実施

近年、ソラマメの生育において、土壌酸度(pH)、養分バランスの崩れなどを原因とした生理障害や生育不良等が発生しやすくなっています。今一度、土壌診断を実施し、最適な施肥管理を指ししましょう。



写真①~③ ソラマメのウイルス病症状



写真④ 炭酸ガス発生機

があること、②温度・湿度が適度にあること、③必要な二酸化炭素があることが重要となります。そのため、ハウスのビニールはきれいに保つ、ハウス内全体の温度差を少なくし、20〜28℃を維持できるようにする(ダクトの配置、循環扇の設置等)、湿度は70〜80%になるように調節する、二酸化炭素濃度は400〜500ppmを維持するようにする(何もしないと正午頃に200ppm位まで下がる)などです。

普段よりも実の肥大や回転が速くなるため、樹勢は強めで維持し、早めの追肥や管理が必要となります。樹勢が落ちやすくなり、褐斑病などの病気も出やすくなるので注意が必要です。

7月の分析経過について	
残留農薬分析点数	…7月は実施なし
土壌診断点数	…………… 合計47点